

1. 件名：福島第一原子力発電所における実施計画の変更認可申請（大型廃棄物保管庫の架台等の設置）に係る面談
2. 日時：令和2年11月19日（木）10時00分～11時15分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者
原子力規制庁
原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
知見主任安全審査官、横山係長、高木技術参与
東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）
福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 5名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づいて、大型廃棄物保管庫橋形クレーン（以下「クレーン」という。）の耐震計算書の構成についてのみ説明があり、計算書の数値や解析結果については別途説明するとのことであった。
- 解放基盤面からの地盤－大型廃棄物保管庫建屋連成地震応答解析については、地盤改良後の剛性を使用していないことを規制庁から指摘されており、解析に使用する地盤定数を修正して再解析をするのに時間を要すること。更に、再解析の結果を踏まえ、クレーン及び吸着塔保管架台の耐震計算を行う予定としていることの口頭説明があった。
- また、当該架台の計算についても、規制庁の指摘に対して摩擦係数を見直しており、再計算が必要であるとの口頭回答があった。
- 原子力規制庁は、東京電力に対して、以下の指摘を行った。
 - クレーンの耐震計算書の構成について
 - ✓ 吸着塔、建屋及びクレーンの耐震クラスについて明確にし、「上位クラス施設」と波及的影響の関係を整理して説明すること。
 - ✓ 耐震評価フローについて、時刻歴解析と応答スペクトル解析の適用の仕方が分かるように記載すること。
 - ✓ 解析の方向（NS、EW）による滑り又は固定の条件の違いが、計算過程において分かるようにすること。
 - ✓ 評価部材の連結ボルトが何を連結するものなのか、また構造図上の位置等についての説明を追記すること。
 - ✓ クレーン本体橋脚部材において、応力が最大値となる部位はどこか、明記すること。
 - 地震応答解析の再解析およびその結果に基づいて行われるクレーン及び架台の耐震計算書については、準備が整い次第説明すること

6. その他

資料：大型廃棄物保管庫橋形クレーンの耐震性についての計算書
参考資料 耐震安全解析に用いる（NASTRAN）について

以上